



日本科学者会議 (JSA) 滋賀支部  
NEWS LETTER

2019年9月8日発行 第47号  
事務局長 水原 渉  
TEL/FAX 0749-47-5169 (共通)  
go-ma-me@hi3.enjoy.ne.jp

## 【論考】今回の参議院議員選挙結果についてなど

水原 渉

### 自民党は勝利した？

この7月の参院選で自民党は後退し、単独過半数も改憲勢力の2/3議席確保もできなかった。反安倍政権野党（以下、野党）は32の全1人区で共闘、10区で勝利し、自民党の後退に決定的影響を及ぼした。

安倍政権の多くの政策に過半数の国民は反対だが、支持率は何年も40%前後で推移している。支持理由として「他に選択肢がない」と考える人が多い。

### 野党共闘の効果 — 徐々に強まっている

現在の国政選挙での野党共闘は、2015年、安保法制を強行成立させた安倍政権の暴挙に対する市民の「野党は共闘！」の声に応じて始まった。翌年の参院選では全1人区で実現し、11区で勝利した。この時には「安保法制廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回」を基本とした4項目の5党合意が行われた。2017年の衆院選小選挙区では、選挙直前に参院の民進党が消滅し、共闘体制に困難をもたらした。その結果、自公両党に2/3超の議席を維持させた。

今回の参院選では、野党側は13項目の共通政策で戦った。1人区当選者は、2016年選挙と比べ1名減だった。前回、野党側には選挙に有利な現・前・元職が11人いた。今回は前・元2名だったが当選1名減のみで、殆どの1人区で「野党の比例得票合計」を「統一候補の得票」が上回った。共闘効果は前回を超えた。

### 野党共闘から政権交代へ — JSAの目的と共通政策

共通政策の積み重ねは政権構想の基礎となり得る。野党による政権交代（組閣）は、2014年の「集団的自衛権行使容認」閣議決定撤回に必然的だった。安倍政治の外交、内政の全面的問題に対して、幅広い共通政策ができつつあり、政権交代はその実現にも必須だ。

今回参院選での共通政策の第1項は「第9条改定反対」だった。選挙後も安倍首相は改憲に執念を燃やしている。9条改憲がされ、自衛隊が憲法明記されると、

いまは殆どの大学が不参加の防衛省助成軍事研究について、まず国公立大で公的機関としての不参加表明を禁ずる動きがでてくるだろう。研究者の競争を煽り、分断させ、軍事研究助成も増額され、希望者も増えてくる可能性もある。これは、日本の科学の自主的・民主的発展の妨げになる。こんなことは科学者会議の目的とは真逆の状態認められない。

科学者会議の目的と野党共通政策は、他にも「原発ゼロ」、「辺野古新基地建設反対」など一致する部分が多くある。政権交代で、私たちの目的に沿った現実要求も実現していける条件ができる。そのような視点で、きたるべき総選挙でも野党共闘に注視し、必要な要望提出や可能な支援をしていくことも必要かと思う。

## 【報告】「戦争の墓碑に向き合い、その声を伝える」

大津市 井上敏一

### はじめに

2007年8月の早朝、なにかに誘われるように、民間墓地に足を踏み入れた。日露戦争から15年戦争までの戦死者の碑文を読む内に、「戦死者には名前があるし、生きた姿もあったはず。墓碑が朽ちれば、その人の生も死も消えていく。この国で戦争があったことも消えていく。それでいいのか」という無言の圧力が押し寄せてきた。私はそれ以降、旧「県志」、旧「郡志」、旧「市志」、日露戦争の「戦時事績」などをたよりに、西南戦争から15年戦争までの墓碑を探し出しては記録をすることを始めた。やがて、一つ一つの墓碑だけでなく、戦死者の埋葬のあり方へ、そして軍隊というもののあり方へ、関心が広がっていった。

私のフィールドは、三つの分野にわかれている。一つは、出発点となった民間墓地。二つ目は、旧陸軍墓地。三つ目が忠魂碑。

### (1) 民間墓地～戦死者の墓碑の特異性～

戦死者の墓碑は石でできている。名だたる僧侶や支配階級でないかぎり、一般人は、村落の共同墓地に木

製の墓碑一本をたてて眠る。朽ちれば、次の埋葬者のために消えていく。しかし、戦争で亡くなった軍人は異なる。集団墓地の入り口に、そびえ立つ碑となって立ち並ぶ。忠魂碑と同様に、村の靖国神社としての役割を演じていた。戦死者は、生きては戦争で使われ、死後も戦争推進の役目を負わされている。

### (2) (旧) 陸軍墓地～軍隊とはなにかが見える～

陸軍墓地は、軍事基地の副産物である。大津市では数百柱の規模。最大は、大阪の真田山陸軍墓地で、数千柱になる。かつては軍管理の聖地であったために、立ち入ることは容易でなかった。だが、敗戦後は国が管理責任を放棄し、自治体の負担をかぶせた。自治体は墓地を壊して公園として、墓碑は廃棄されるなどの目に遭っている。大津市の場合、1970年代に全面破壊の危機に直面した。バイパスが墓地のど真ん中を通る計画が実行されたためである。私が調査をはじめたのは、その後のことである。靖国神社とは異なり、軍そのものが見える場所である。

### (3) 忠魂碑～歴史のなかで三つの時代を反映～

忠魂碑は、三つの時代を反映している。戦争推進のために建立された時期、敗戦後に占領軍に配慮して破壊された時期、日本の右傾化とともに復活を果たす時期。戦後は、その管理責任もあいまいとなり、所在すら明確になっていないものもあった。私は、碑を探し出し、それぞれが担った役割を再現する試みをおこなっている。

#### 最後に

民間墓地の墓碑はもちろん、忠魂碑にしても、陸軍墓地にしても、まともな調査がされず、朽ちるにまかされることが多い。私は、一つ一つの墓碑に向き合い、戦争というものの素顔をたどる試みを続けている。

(続く)

### 【速報】教育研究全国集会 2019 in 滋賀

8月に開催された教研全国集会については、規模も大きく内容も多彩であったため、本NEWS LETTER47号では特設分科会に関して速報して頂きました。(沖野)

2019年8月16～18日、「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい 教育研究全国集会 2019」が滋賀

県で開催されました。日本科学者会議も賛同団体で、現地実行委員長は滋賀支部県大分会の福井雅英さんです。私は特設分科会「日本語指導が必要な児童・生徒と学校教育」で17日にミニ講演とパネラーを担当しました。これまで「教育のつどい」では、人権を扱う分科会で外国ルーツの子どもについてのレポートが出たことはありましたが、独立した分科会としては無く、今回、現地実行委員会の主導ではじめての試みとして設置されたそうです。4月に新入管法が施行され「新たな外国人材」の受入がはじまった影響もあってか、椅子が不足するほど予想以上の参加があり、全国から集まったレポート提出者や参加者は分科会の常設化を口々に求めました。『日本の科学者』2019年2月号の特集「夜間中学が切り開く学習の自由」の巻頭論文の著者、関本保孝さんも参加されており、滋賀県でも夜間中学を実現させるのに力を貸してくださいとお願いし、意気投合しました。(県大分会 河かおる)

### 【第3回幹事会報告】

2019.8.24 開催／配布物:支部会計細則、全国事務局ニュース第2,3号／**1. 情勢討議** 国内外、県内情勢の確認。日韓GSOMIAの議論。**2. 全国、近畿地区の活動** 〇地区会議(8.8)・会員動向。・来年第22回総合学術研究集会は東京地区、時期未定。・研究助成再開、正式決定は12月。・地区シンポテーマは「アジア地域の国際交流」。**3. 滋賀支部の活動** 〇会員動向(8.24現在):会員数67名(県大7、滋賀大8、個人会員分会52)、読者1名、会費未納者数合計17名(21%)。〇支部ニュース8.22編集会議の報告(毎月発行努力、10月号の予定内容など)。**4. 分会報告** 〇県大:前川喜平氏講演会企画(日本語学習機会のための夜間中学に関連)。実行形態の議論。〇個人会員分会:8.21第2回世話人会の報告(アンケート調査、総会開催は11.23(土))、『日本の科学者』を読む会、「なんでも勉強カフェ」、現地研修(醒ヶ井養鱒場視察、霊仙山山麓散策;醒ヶ井宿見学の提案)。**5. 支部関係組織での活動** 〇脱原発2020びわこ集会実行委員会(8.26予定)、〇「教育研究全国集会2019 in 滋賀」参加報告。■次回幹事会:10月26日(土)、9時15分～12時、「コミュニティセンター やす」